

# おだわらイノシカ捕獲 ネットワーク

会報第1号

会長 穂田芳雄

〒250-0042

小田原市荻窪 594



2018年9月15日発足

9月25日創刊

## 捕獲支援・代行、森里を守るくくり罠チーム発足！

平成30年9月15日、「おだわらイノシカ捕獲ネットワーク」の設立総会が行われました。冒頭に発起人代表の穂田芳雄さんから設立に至る経緯が伝えられ、参加者16名により設立総会が行われました。総会では初顔合わせとなった会員の自己紹介があり、会の取り組みへのたくさんの期待や希望が寄せられ、大変有意義な会となりました。会報誌創刊第一号は会長と副会長、事務局からのご挨拶と、オブザーバーとして参加された農政課新倉さんのお話の要旨をお伝えします。また9/22に行われた顧問の石綿敏久さん講師によるくくり罠講習会の模様を報告いたします。森里を守るくくり罠の互助会、および捕獲チームが発足しました。地域や関係の皆様、応援よろしくお願いたします！

### ◇ 会の発足に寄せて ◇

～とめざしや解体を助け合う仲間づくりを～ 穂田芳雄（会長） . . . . .

私がくくり罠の免許を取得したのは8年前、当時主催していた市民農園をイノシシの被害から守るためでした。市販されている物を参考にくくり罠を自作し、初めて獲れた時は感激しました。仲間の畑や、時には依頼されて罠を掛



2018.7.7 廣川さん畑にてくくり罠講習

けたりして、獲れると解体処理をして、肉を友人知人に分けたり、収穫祭で提供し喜んでもらう事を続けてきました。

たまたま以前森林作業で知り合った川島さんが、シカ対策のためにくくり罠免許を取ったものの、とめざしや解体の大変さが予想される事から、解体経験者である自分が協力する事になり、もう一人の発起人である和留沢の廣川さんの畑をフィールドにして、3人チームでシカやイノシ

シを捕獲するようになりました。獲れると自宅に運び、講習会を兼ねて解体作業を行ってきました。少しづつ人の輪が広がってきました。

山は獣害で大変な事になっていますが、捕獲はとめざしや解体がネックになって、なかなか捕獲者が増えない現状があります。銃が使えない場所での捕獲もあり、いざと言う時の技術が必要です。初心者でも自立して捕獲ができるように技術研鑽をしたり、相互に助け合う体制づくりが必要であると感じ、会を立ち上げる事にしました。

さっそく若年から多くの年代の人が参加してくれる事になりました。環境志民ネットワークの助成金を獲得し、電気とめざし器を購入する事もできました。これからは捕獲の互助体制を作ると同時に、捕獲から解体まで完結してできる人の養成もしていきたいと思います。

会の事業としては、誰でも参加できる互助体制で捕獲者の増加を図る事、獣害で困っている人の所に出張し、代行して捕獲を行う事、そして山の環境保全のために、チームでシカの捕獲に取り組む事も進めていきたいと思います。

捕獲は予定が立たないので、仕事をおぼり出して都合のつく人ばかりではありません。捕獲のあった時、何時なら参加できるか情報をいただき、獲れたら随時講習会などを行い、皆で研鑽していきたいものです。また収穫物でシシ鍋などを囲み、皆で一杯やりながら親睦を図っていければと思います。



写真左) 廣川氏農地にスギ・ヒノキ・アオキを植栽した誘引地と、訪れたシカの親子。  
上)採食されたスギ苗。  
(NPO 法人小田原山盛の会提供 2018.7.7 自動撮影)

## ～耕作放棄の和留沢～ 廣川登 (副会長)

私の農業形態は、勤めながらのお茶や、サツマイモ、里芋、ジャガイモの栽培を主としています。

イノシシの被害は、今に始まった事ではありません。平成に元号が変わった頃より、イモ類の栽培が困難になり、電柵のお世話になりました。電柵も日々の点検が必要で電池が切れたり電線に草が触れたりして、侵入を許してしまったりしました。その頃より甥っ子の畑を借り、里芋、ジャガイモの栽培は諏訪の原へ移しました。

平成 18 年ごろより鹿を見かけるようになりましたが、当時は珍しさが先で農業被害など考えもしませんでした。

サツマイモは和留沢の土の相性が良く、電柵を強化してきましたが平成 27 年、ついに 1.5 メートルの電柵を飛び越えるシカに、サツマイモの葉と茎を食べられてしまい、ここでの栽培は断念し、諏訪の原に移しました。

今回顧問になっていただいた石綿敏久さんには、以前お願いして罠を仕掛けていただきましたが、イノシシとシカは増える一方です。有害鳥獣の追い払いで、花火も試しましたが一時しのぎでした。山盛の会でシカ調査に参加して驚くことばかりでした。箱根外輪山の下草が無い、灌木もシカの口の届く 1、5 メートルあたりまで葉っぱも小枝までもがない。久野山でもあちこちで同じ事が起きています。

川島さんが罠免許を修得した事を機会に、穂田芳雄さんに指導を仰ぎ、私の農地で実践をと、3人で今年3月より始めました。この会の発足までに14頭(シカ8頭シシ6頭)を捕獲しました。

これだけの頭数を捕獲すると後の作業が大変です。幸い協力者が増えてきて解体処理作業が少し楽になり、これを元に協力体制ができないものかとの発想に至りました。

罠免許を持つ人、農業被害を受けている人、解体作業に興味を持つ人、捕獲したが後処理が苦手な人、これらを繋ぐ人達がいても良いのではないだろうか、そんな思いからこの会を立ち上げました。

今後はこの地域の新たな捕獲ポイントを考えるために、久野川の両岸のシカが渡渉可能な場所などのマップ作りや、罠のICT通信の利用など、有効な捕獲体制を皆で考えて行かればと思います。

## ～ふるさとの森を守るシカ捕獲チームを～ 川島範子(事務局) 小田原山盛の会副理事長

2015 年春から山盛の会で箱根山系のシカ調査を開始しましたが、この数年、箱根東麓のシカの生息密度は急上昇を遂げ、農林被害がかなり酷くなってきました。センサーカメラを和留沢地域に9台かけて生息状況を把握しています。子供を連れた♀グループが何グループもあり、繁殖期になったこの頃は角の立派な♂ジカが入れ替わり映っています。新植地が多数ある久野では、そこが恰好の餌場となっています。スギ、ヒノキも所により棒ブラシ状になるくらい食べられ、激害が発生しています。箱根外輪山では♂ジカの角コスリで低木が枯死し、次代の水源の森が失わ



今後は獣害で困っている畑に出動したり、捕獲者の少ないシカの捕獲を、会事業として実施し、箱根山地を守る捕獲体制の一翼を担えればと思います。

写真左)

廣川氏農地で捕獲されたイノシシ♀成獣。イノシシは人を見ると突進してくる。ワイヤーを掛けた梅の木の前は、ドーナツ状に掘れてしまった。とめざしは猟銃で実施。(2018.3.20 川島撮影)

れ始めています。

和留沢の廣川さんの畑で捕獲を開始し、これまでにシカ8頭が掛かりました。罠の近くにシカが好むアオキを刺すとシカが寄ってきます。獣害による放棄地に、山盛りで誘引用のアオキ畑を作らせてもらい、実験を行うと、シカの親子が入れ替わり訪れ、その周囲で仔ジカ3頭、親ジカ1頭を捕獲しました。しかしカメラにはまだ別の仔ジカが映っていて驚きます。

和留沢にはスギ・ヒノキの新植地が多数あり、そこには周囲からシカが集まり、増殖場となって高密度化が起っています。シカの親子の情愛豊かな映像を見ては命の尊さを感じます。しかし人間がオオカミとなって捕獲圧を掛けなければ、生態系の基盤である森そのものが失われてしまうのです。

捕獲を始めてみて様々なハードルがありました。申請手続きも大変でしたが、とめざしやその後の解体処理など、一人ではとてもできない事が多々あり、免許を取っただけでやめる人が多いのがうなずけました。様々なハードルを協力して乗り越えていく横の繋がりを持ち、捕獲技術を身につける場をつくる事が、捕獲者の増加に繋がります。現在シカの捕獲は圧倒的に足りない状況で、森林生態系の劣化を防ぐためには生息密度が低いうちに捕獲を強化する事が必要です。またイノシシの捕獲は危険が多く、安全な捕獲技術やノウハウの共有が不可欠です。

この会ができたことによって、ペーパー捕獲者の復活をサポートしたり、農地を持たない方の参入も可能になります。興味のある方は是非ご参加いただければと思います。

## ~シカ対策に農と林の連携を、国有林での体験を生かしたい~

新倉和宏さん (小田原市農政課・オブザーバー参加)

林野庁からこの4月に小田原市の農政課に赴任しました。小田原の農業は里山が中心で、森林林業被害と農業被害が発生しています。獣害の協議会がありますが、農しがなく、農と林の連携がなかなか取れていません。



写真上) 設立総会で挨拶される新倉氏 9.15

私が高知の国有林に赴任していた時、高知では10万頭単位でシカが増え、国有林で捕獲したり、罠の開発をしたりしていました。その後秋田県に行きましたが、そのシカは一度絶滅して再侵入した所で、白神山地のシカ対策に関わりました。秋田で免許を取りましたが、その後失効してしまいましたので、もう一度取り直したいです。農林の協力など、自分の経験を役立てていきたいです。囲い罠など開発に関わりましたので、またいずれ、じっくりお話する機会を作って頂ければと思います。



## 9月22日 石綿敏久さんに聞く~くくり罠講習会~を実施しました!

本会結成第一回目の講習会は、7月に罠を多数かけた廣川さん畑の罠のかけ直しを行う予定でしたが、急きょ顧問に就任していただいた有機農法研究会の石綿敏久さんがご参加くださる事になり、ご指導いただく事になりました。

石綿さんはイノシシ、シカの捕獲で大変実績のある方ですが、昨年、湯河原で年間イノシシ 100 頭を捕獲する名人に会いに行き、秘訣を教わったとの事。この日都合のついた幸運な9名の会員が、石綿さんを囲み、お話を伺いました。いろいろな秘訣を実演を交えてご披露くださいました。その一部をお伝えします。

- ・踏み板を支える楊枝を必ず使用し、体重のあるシカやイノシシが掛かり、軽い動物の誤捕獲の無いようにする。
- ・安全装置は見破られるので外す。
- ・イノシシは左足が利き足なので、木枝などの障害物は斜

めに置き、左足の来る位置に罠を設置する。(写真左上)

- ・罠は水平に置き、足を置く平らな位置を造成し誘導する。
- ・掘って出た土は匂いでわかるので、そのままに置かず、古い袋などに入れる。

- ・罠に土はかぶせない、詰まってワイヤーの跳ね上がりが遅くなる。落ち葉をかける、などなど。

後は実践の中で創意工夫をするように、との事でした。大変勉強になりました。ありがとうございました!

教わった罠の部分的な改造や楊枝は次回とし、とりあえず日が暮れるまでメンバーは罠の掛け替えを行いました。現場はシカなどの足跡が多数あり、罠の数 cm 脇を通っていたり、幾つかは跳ねていたりしています。ご指導により精度が高まり、後はイノシシのかかるのを待つだけです。皆さんも是非ご参考に!

## 「おだわらいノシカ捕獲ネットワーク」とは?

- ・くくり罠捕獲のとめざしや解体を助け合う互助組織です。
- ・くくり罠捕獲の講習、支援、代行をします。
- ・森里を守る捕獲チームがあります。
- ・調査・研究もします。

◎免許の有無にかかわらず、どなたでも活動にご参加いただけます。

◎見回りや搬出が可能な現場は、くくり罠の代行をいたします。ご相談下さい。

入会ご希望、わな代行依頼、その他お問い合わせは、以下にご連絡ください。

会長; 穂田芳雄 ☎ 090-4228-7460 副会長; 廣川登 ☎ 090-9951-7096

事務局; 川島範子 ☎ 090-9349-7014 (夜間) [Eメール burimori.p@gmail.com](mailto:burimori.p@gmail.com)

年会費 個人、家族、団体  
いずれも 2000 円

30年度小田原市捕獲数  
イノシシ 110 頭  
シカ 19 頭  
(内、久野 11 頭)  
9/25 現在

